



1989年、清水事務局長を組織内候補として参議院に送り込むことができました。そこから日本軍「慰安婦」問題の国会における追及が始まり、1993年には遂に「河野談話」が発表され、政府は日本軍の関与を認め、謝罪しました。

1991年、シンポジウム「アジアの平和と女性の役割」を東京、兵庫で開催、韓国と朝鮮それぞれに友好関係を築いてきた努力が実り、朝鮮半島の分断後初めて韓国と朝鮮の女性が日本で再会し抱き合いました。女性たちは、日本の歴史認識を正し、日朝国交回復実現、「慰安婦」問題の共闘、南北分断を終わらせる共同行動を誓いました。



秋には韓国、翌年にはピョンヤンで開催し、南北の女性は軍事境界線を越えました(写真左上からイ・ウジョンさんとリョ・ヨングさん)。



その後も、私たちは共和国との交流、ピースラインを続けており、2008年にも日朝国交正常化をめざす訪朝団を送りました。



アジアの平和と日朝国交正常化



中国との国交回復ができた1972年、朝鮮半島では歴史的な7・4南北共同声明が出され、初めて朝鮮民主主義人民共和国に田中寿美子議長らの女性代表団を送りました。植民地支配の歴史とその後の北朝鮮敵視政策に気付かされた私たちは、反省をこめて74年「朝鮮女性と連帯する日本婦人連絡会」を立ち上げました。



朝鮮女性と連帯する会は、朝鮮と日本を「対立」から「平和」の関係にしよう、相互交流を強めてきました。また在日朝鮮人の民族教育や人権問題、在日韓国人の政治犯釈放、キーセン観光反対、あるいは韓国スミダの問題など民主化運動と連帯を続けてきました。



91年12月に韓国の金学順(キム・ハクスン)さん(写真左)が賠償を求める裁判をおこし、アジア各地の被害者の裁判も続きました。しかし、補償問題はいっとうに進展せず、オモニたちの年齢から「もう待てない」との判断で村山内閣の下でのアジア女性基金となりました。この時ほど、私たちの政治的非力を痛感させられたことはありません。この「慰安婦」問題での共闘は、国連での「女性に対する暴力撤廃宣言」となり、武力紛争下における女性の人権問題として、現在、世界の女性の共通の課題に発展しています。

